

水稲収穫量調査の現場説明会等を開催し、統計への理解を向上

県、農業関係団体等に水稲収穫量調査の実測を体験していただくとともに、実測値を活用した10a当たり収量の算出結果の説明と意見交換を実施。

○ 施策分類

統計（水稲収穫量調査）

○ きっかけ・背景、課題の把握

- ① 6年度に講師として参加した農業者研修会での統計値を疑問視する意見
 - ② コメ不足に端を發した統計値が生産現場の実感と乖離しているとの指摘
 - ③ 6年産の水稲収穫量調査公表説明会における実測調査の体験要望
- 等を踏まえ、水稲収穫量調査について関係者の理解を深めるため、令和7年産においてサンプルほ場を設置し、県、農業関係団体等を対象に現場説明会を開催。

○ 取組の内容

参加者（県、JA中央会、JA全農、JA、農業会議、農業共済）に対し、

- ① 初めて開催した現場説明会では、JAめぐみの管内のサンプルほ場で刈取り調査の手法を実演し、参加者が体験。
- ② 乾燥調製等のあとに開催した水稲収穫量調査公表説明会（第1回）では、刈取り試料を展示して算出方法を説明。
- ③ さらに第2回の説明会で、生産者が実際に収穫を行った収量情報を提供したが、統計調査手法による算出収量を上回る結果となったことを説明。

○ 効果・成果、今後の方向性

現場説明会体験者から「算出された数値への理解が深まった」「標本単位区が無作為に抽出されていることを確認した」などの感想があり、参加者の調査への理解に役立ったことを確認。今後、参加者の属する各組織を通じ生産者の本調査への理解醸成が期待できる。

次年度は、他のJAに対し管内での現場説明会の開催を働きかけるとともに、要望に応じ農業者が参加する各種会合での説明を行う予定。



熱心に説明を聞く参加者

体制図

